

# ロジスティクス環境会議 第3回委員長ミーティング

2005年6月20日(月)15:00~17:00  
(社)日本ロジスティクスシステム協会 会議室

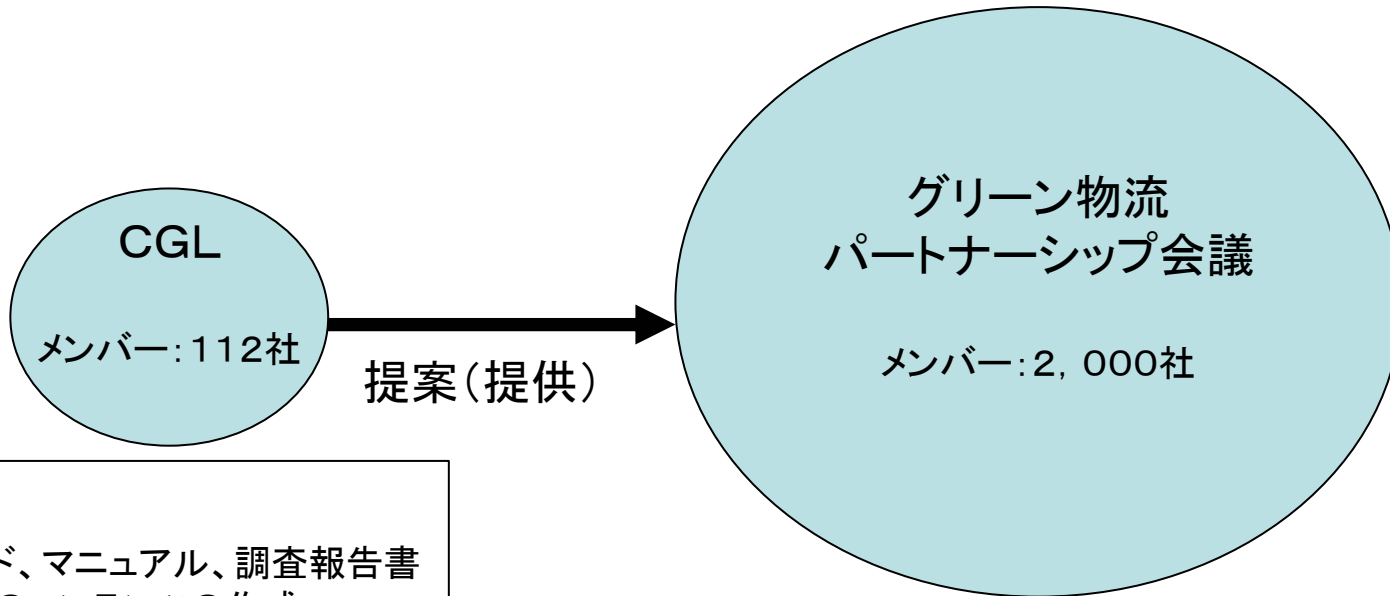
## 次 第

1. 開 会
2. 行政等の動向
  - 1) 改正省エネ法について
  - 2) グリーン物流パートナーシップ会議について
3. 議 事
  - 1) 2005年度の活動ロードマップ(案)
  - 2) 第3回本会議における企画運営委員会からの提案の進捗状況
  - 3) 2004年度から2005度の各委員会の経過
  - 4) 各委員会の活動内容と成果のポイント
    - (1) 環境パフォーマンス評価手法検討委員会
    - (2) 源流管理による環境改善委員会
    - (3) 省資源ロジスティクス推進委員会
    - (4) リバースロジスティクス調査委員会
    - (5) 共通基盤整備委員会
  - 5) 環境パフォーマンスの検証
  - 6) その他
4. 閉 会

### 【配布資料】

- 資料1：改正省エネ法
- 資料2：CGLとグリーン物流パートナーシップ会議の役割分担
- 資料3：2005年度の活動ロードマップ(案)
- 資料4：第3回本会議における企画運営委員会からの提案について
- 資料5-1：2004年度から2005度の各委員会の経過
- 資料5-2：環境パフォーマンス評価手法検討委員会
- 資料5-3：源流管理による環境改善委員会
- 資料5-4：省資源ロジスティクス推進委員会
- 資料5-5：リバースロジスティクス調査委員会
- 資料5-6：共通基盤整備委員会
- 資料6：環境パフォーマンスの検証の概要(試案)
- 参考資料1：グリーン物流パートナーシップ会議
- 参考資料2：環境パフォーマンスの検証
- 参考資料3：ランドデザイン
- 参考資料4：第3回本会議議事録
- 参考資料5：グリーンロジスティクスエキスパート講座(仮称)

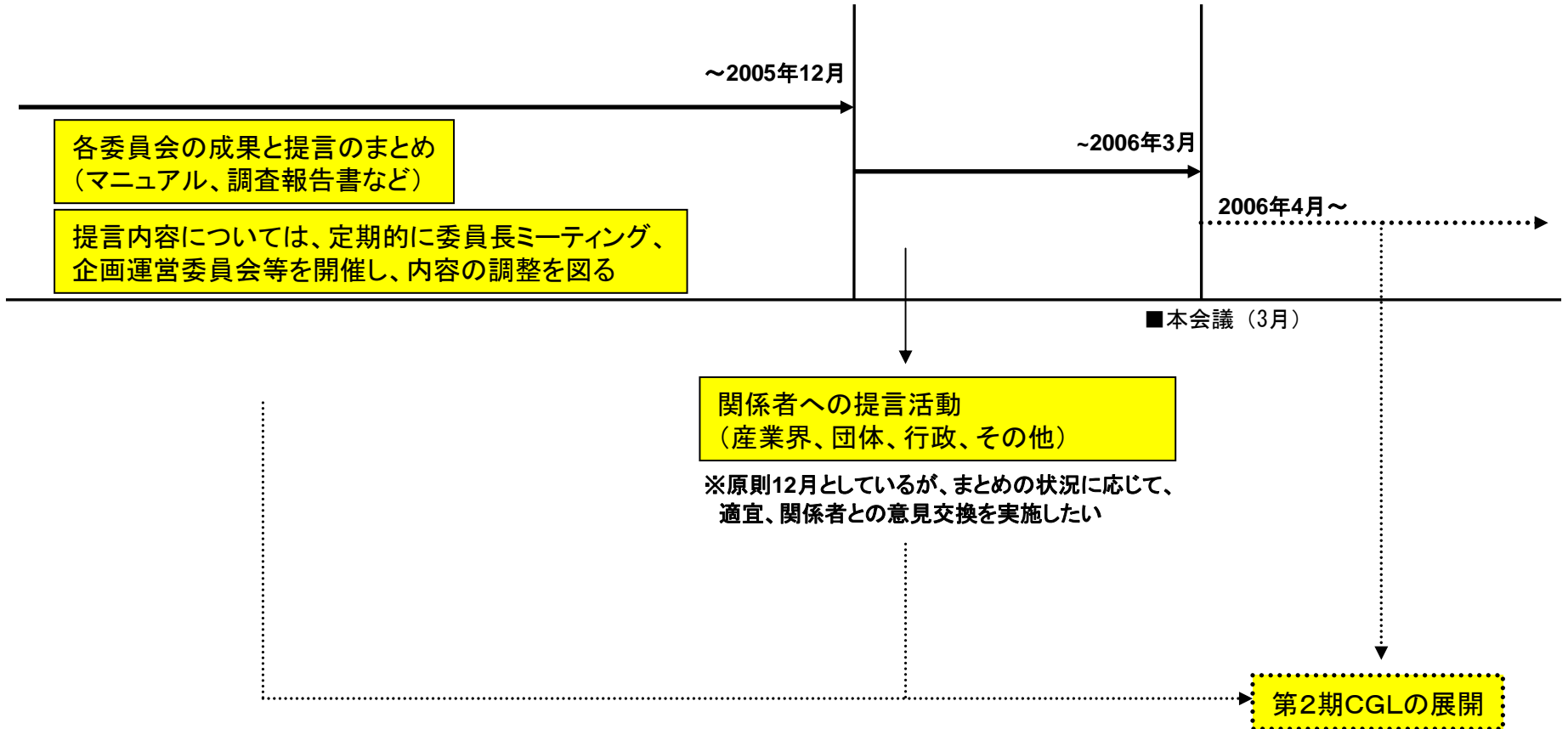
以 上



ガイド、マニュアル、調査報告書  
などのコンテンツの作成  
(CGL成果物)

CGLコンテンツ(成果物)を提案(提供)

⇒ 普及拡大  
「1社でも多く環境活動に取り組む  
企業増やす(CGL目標)」



### 第 3 回本会議における企画運営委員会からの提案の進捗状況

1. トラック輸配送に関する二酸化炭素排出量算定式について
  - 1) 算定式試用（検証）の要請  
メンバー向け説明会の準備中。  
**⇒詳細は議事 5）にて説明**
  - 2) 排出係数、排出原単位の標準的な値の整備とその維持管理に関する要望
    - ・事務局と経済産業省（資源エネルギー庁）にて意見交換を実施。
    - ※企画運営委員会から「要望書」の提出
2. リバースロジスティクスの共通プラットフォーム構築の着手について
  - 1) 関係データの提供ならびにヒアリング等の調査の協力要請
    - ・リバースロジスティクス調査委員会にて、調査協力内容を検討中
  - 2) 関連法制度に関する関係行政機関との意見交換の実施
    - ・問題点の裏づけを調査中
3. 関連法制度に関する関係行政機関と C G L メンバーとの課題の共有  
(関連法制度に関する関係行政機関と C G L メンバーとの意見交換会実施の要望)  
  
**【改正省エネ法に対するこれまでの経過】**
  - ・事務局と経済産業省（資源エネルギー庁）にて着荷主等の問題について意見交換を実施。
  - ・経済産業省（資源エネルギー庁）より、省令レベルで問題点に対応していく方向を確認。
  - ・経済産業省（資源エネルギー庁）による省令検討に関する協力要請を受け、検討会メンバーに環境会議メンバーならびに事務局が検討会メンバーとして参画中。

以 上

ロジスティクス環境会議の目的、目標と2005年3月時点における各委員会の活動経過

1. 環境会議の方針

- 1) 目的：循環型社会を実現するロジスティクスの構築 ～個人が変わる、企業が変わる、物流が変わる～
- 2) 目標：行政・自治体・大学等の研究機関・関連団体との連携を図りながら、環境と調和したロジスティクス方針・活動を通じて、循環型社会を実現するロジスティクスの構築に取り組む企業を増やす。
- 3) 期間：2003年11月～2006年3月（第1期）

2. 各委員会の活動方針・活動内容と課題・成果

委員会	第1回本会議（2003年11月）	第2回本会議（2004年4月）	第3回本会議（2005年3月）
環境パフォーマンス評価手法検討委員会	<p>【活動方針】</p> <p>1) ロジスティクス活動の環境負荷を低減するため、環境負荷を定量的に把握、評価し、環境負荷を低減するため、標準的な環境パフォーマンスの算定方法と算定に必要なデータを整備する。</p> <p>2) 標準的な環境パフォーマンスの算定方法と算定に必要なデータを関係者に提案する。</p> <p>【成果物イメージ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境パフォーマンス指標と測定方法のマニュアル</li> <li>・ベンチマーキングのための指標整備と評価事例集</li> </ul>	<p>【成果物】</p> <p>1) 標準的な環境パフォーマンス評価方法の例示・・・2004年9月 ※環境報告書の環境パフォーマンスの表記方法や評価方法の例示など ※経営指標とロジスティクス活動の関連付けの例示 例：ロジスティクス環境経営効率化</p> <p>2) マニュアル・・・2005年7月 ※LEMSマニュアルに業種等の特性の視点を加えて検証し、実務で活用できるようLEMSマニュアルの実用度を上げる。 ※各委員会で作成される、マニュアル（項目）等との連動</p> <p>3) 環境パフォーマンスの算出結果のデータ集・・・2005年10月</p> <p>4) 提言・・・2005年12月 ①対行政 ②対産業界 ③対消費者 ④その他 ※各委員会の提言内容は、企画運営委員会にて集約してまとめる。</p>	<p>【2004年度成果物】</p> <p>『二酸化炭素排出量算定ガイド（データ収集方法事例集）／輸配送・トラック版 ver. 1』 標準式：二酸化炭素排出量(kg)＝燃料使用量(l)×二酸化炭素排出係数(kg-CO2/l) 準標準式：二酸化炭素排出量(kg)＝[走行距離(km)÷燃費(km/l)]×二酸化炭素排出係数(kg-CO2/l) 代替式：二酸化炭素排出量(kg)＝[輸送重量(t)×輸送距離(km)]×二酸化炭素排出原単位(kg-CO2/t・km) 基本的には計画通り進行。ただし、内容は「輸配送・トラック」に限定 ※「経営指標」については、第1期活動では見送り</p> <p>【2005年度活動成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『二酸化炭素排出量按分ガイド／トラック輸送版』（仮称）</li> <li>・『包装資材の環境負荷排出量算定ガイド』（仮称）</li> <li>・『CGLメンバー企業の二酸化炭素排出量算定データ集』（仮称）</li> </ul> <p>【2005年度活動（検討）内容】</p> <p>以下2つのテーマについて緊急性・波及効果・実効性等の視点からLEMS*調査結果の検証後、優先度の確認および具体的な活動（検討）を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・按分に関する基本的な考え方とその方法 ⇒トラック輸送に伴う二酸化炭素排出量</li> <li>・包装資材の使用量、廃棄量等の環境負荷算定の基本的な考え方とその算定方法</li> </ul> <p>◆提言の方向性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・トラック輸配送に関わる二酸化炭素排出量の算定式の標準化</li> <li>・按分方法の標準化</li> <li>・包装資材使用量/排出量の算定方法の標準化</li> </ul>
源流管理による環境改善委員会	<p>【活動方針】</p> <p>1) ロジスティクスの分野から環境負荷低減に取り組むため、荷主企業のロジスティクス・物流部門、物流企業として現状の物流活動をチェックし、見直すための視点とその内容をまとめる。</p> <p>2) 合意された内容はマニュアル形式に整理し、関係者の環境活動を支援する。</p> <p>【成果イメージ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・製造業(物流部門)、物流業、流通業等の各々が環境負荷を低減するマニュアルの作成</li> <li>・企業内、企業外に対する提案の作成</li> </ul>	<p>【成果物】</p> <p>1) マニュアル</p> <p>【第1ステップ】・・・2004年9月</p> <p>(1)各企業が守るべきこと(法令、条例遵守事項)</p> <p>(2)各企業がやるべきこと及び対策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・荷主企業(製造業・流通業等)の物流・ロジスティクス部門 ※物流・ロジスティクス部門が直接管理可能な範囲</li> <li>・物流企業(運送業・倉庫業等)</li> </ul> <p>【第2ステップ】・・・2005年3月</p> <p>(1)各企業がやるべきこと及び対策(荷主企業における対他部門)</p> <p>(2)物流企業(運送業・倉庫業等)から荷主企業(製造業・流通業等)に提案すべき、物流サービス(環境負荷低減等)</p> <p>【第3ステップ】・・・2005年10月</p> <p>(1)主体間の留意すべきこと</p> <p>2) 提言・・・2005年12月 ①対行政 ②対産業界 ③対消費者 ④その他 ※各委員会の提言内容は、企画運営委員会にて集約してまとめる。</p>	<p>【2004年度活動成果】</p> <p>『ロジスティクス源流管理マニュアル ver. 1』 ※第1ステップ（法令、条例遵守事項除く）</p> <p>計画より進行に遅れ。第2ステップを2005年度作成 第3ステップ「主体間（企業間）」は「省資源委員会」にて2005年度検討</p> <p>【2005年度活動成果】</p> <p>『ロジスティクス源流管理マニュアル』のまとめ</p> <p>※定量化指標については、パフォーマンス委員会との連携を図り、活動評価項目として記載予定 ※源流を管理する目的や意思決定者、実行者の明確化および啓発・普及</p> <p>【2005年度活動（検討）内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『マニュアル ver. 1』の抜け漏れと文章や図表等の見易さ等の確認および改善</li> <li>・荷主企業のロジスティクス・物流部門から企画・設計、生産、販売、環境等の他部門への協力要請する内容のまとめ</li> <li>・物流事業者から荷主企業に協力要請する内容のまとめ</li> </ul>

ロジスティクス環境会議の目的、目標と2005年3月時点における各委員会の活動経過

委員会	第1回本会議（2003年11月）	第2回本会議（2004年4月）	第3回本会議（2005年3月）
<p>2) 省資源ロジスティクス推進委員会</p>	<p><b>【活動方針】</b> (1) 省資源・省エネルギーの視点から、サプライチェーンを構成する荷主企業(発荷主・着荷主)と物流企業等が一体となって物流の環境負荷を低減するため、物流諸活動の事例収集を行い、その内容を整理する。 (2) 荷主企業(発荷主・着荷主)と物流企業等が一体となって、課題解決のための方向性をまとめ、関係者に提案する。</p> <p><b>【成果物イメージ】</b> ・企業の各種物流施策の事例集 ①省資源包装 ②省エネルギー輸送 ③その他 ・企業の各種物流施策に対する課題の整理および提案 ・輸送モード別のシミュレーション (コスト・時間に環境のパラメータを加える)</p>	<p><b>【成果物】</b> 1) 企業(間)の各種物流施策の事例集・・・2004年10月 ※事例収集の切り口、テーマは委員会メンバーの業種、製品群等によって検討する。 例) (1)食品 (2)機械器具・精密機器 (3) 素材(化学・鉄鋼等) (4)その他 2) ガイドライン・・・2005年10月 (1)複数企業間、業際間の各種物流施策に対する課題の整理 (2)省資源ロジスティクスを推進するための方針のまとめ (3)物流施策別の評価手法の作成 (コスト・時間に環境のパラメータを加える) 輸送モード(鉄道・船・トラック等)、配送パターン(共同配送等)、車種別等の組み合わせ ※事前にサプライチェーン上の何処にボトルネック(負荷)があるのか、検証が必要 3) 提 言・・・2005年12月</p>	<p><b>【2004年度活動成果】</b> 『省資源ロジスティクス事例集』 ※委員会メンバーの業種、製品群等により、以下3分野を整理 ①食品 ②機械器具・精密機器 ③素材(化学・鉄鋼等) ※共同化、モーダルシフト等の切口から各社の取り組み事例の収集</p> <p><b>【2005年度活動成果】</b> 『省資源ロジスティクス推進ガイドライン』(仮称) ※発荷主・着荷主・物流企業間でどのようなことに留意し、実行すればCO2とコストが削減するかなどの観点からまとめる。</p> <p><b>【2005年度活動(検討)内容】</b> ・荷主企業(発荷主・着荷主)と物流企業等が一体となって環境負荷低減とコスト低減の両立化の実現 ・物流の構造的問題の顕在化および定量化(わが国の高コスト物流体質の原因の解明) ・物流企業の活動に着目し、積載率等の物流効率化阻害要因の把握</p>
<p>5) リバースロジスティクス調査委員会</p>	<p><b>【活動方針】</b> (1) 循環型社会形成に向けて、今後本格的に必要とされるリユース、リサイクルに関わるリバースロジスティクスのモデル(あるべき姿)をまとめる。 (2) 消費者における還流管理の促進を含め、リバースロジスティクスモデルの構築が可能となる環境整備を促進するため、関係者に対して提案を行う。</p> <p><b>【成果物イメージ】</b> ・国内外の先進事例調査による報告書 ・物流インフラ(ハード・ソフト)整備のための提案 ・新産業の創出の検討</p>	<p><b>【成果物】</b> 1) 調査報告書・・・2005年3月 ※調査方針、内容等の検討 ※特殊な工場廃棄物や化学系廃棄物等は対象外とし、以下のような当委員会の参加メンバーが多く属する業種を切り口に調査を行うことを検討する。 (1)家電、PC、OA 機器 (2)自動車 (3)建設資材 (4)食品 (5)その他 2) ガイドライン・・・2005年10月 ※複数企業間、業界、さらに社会システムとして包装材等のリユース、リサイクルを促進するための指針 3) 提 言・・・2005年12月 4) メンバー各社の事例研究等の勉強会やメンバー各社、自治体活動の現場見学</p> <p><b>【2004年度活動成果】</b> 分野別の『リバースロジスティクス調査報告書 ver. 1』(中間報告)</p> <p><b>【2005年度活動(検討)内容】</b> 循環型社会形成に貢献できる循環型ロジスティクスモデルのあるべき姿をまとめる 全体の進め方: ①実態と課題を更に調査把握 ②あるべきモデルとその実現策の考察 ③提言(企業・業界・行政・消費者など) 提言の方向性: リバースロジスティクスを速やかに構築し、円滑に機能させるため、 ①企業や業界が自主行動(共同化・標準化・リターンナブル包装化など)すべき事項 ②上記活動のために、行政に対する廃掃法を含む法規制の適切・柔軟な運用の要望事項 ③必要に応じ消費者への要請事項(啓発・普及)などを整理する。(行政とは望ましい方向性などについて情報交換の場を設ける)</p> <p><b>【2005年度活動(検討)内容】</b> 各分野の進め方: 1.家電・OA機器 共同化、標準化、法規制などについて、更に詳細調査し、実現策と提言をより現実的なものにする 2.自動車 リサイクル部品・廃タイヤの深堀調査を継続、実現策と提言を更に現実的なものにする ASRのリサイクル法によるリサイクル実績調査と、(問題あれば)解決策考察と提言作成 3.食品 川下(消費者・小売・卸)におけるリサイクル率向上のため、共同回収→再資源化の流れの構築を目指す。実現可能な範囲で、返品物流の共同回収モデルを踏まえた提言も作成 4.物流(包装資材) パレット共同回収の実態および宅配便包装資材の廃棄状況の実態を調査し、リサイクル率向上の具体的策と提言を作成</p>	

ロジスティクス環境会議の目的、目標と2005年3月時点における各委員会の活動経過

委員会	第1回本会議（2003年11月）	第2回本会議（2004年4月）	第3回本会議（2005年3月）
<p>共通基盤整備委員会</p>	<p><b>【活動方針】</b> 環境会議及び各委員会の円滑かつ効果的な活動を支える共通的な「情報資源」を整備する</p> <p><b>【成果物イメージ】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・用語集</li> <li>・法制度や規制値、目標値および各種インセンティブ等の整理と公開</li> <li>・上記に関わる問題点の洗い出しおよび提案</li> </ul>	<p><b>【成果物】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 用語集・・・・・・2004年4月 ※物流・ロジスティクスの視点から、既存の用語集等には抜けている環境に関する用語を収集し、用語集として整備し、インターネット上で公開する。</li> <li>2) URLリンク集・・・・2004年7月 ※行政、自治体、産業界、学界、団体等の情報を収集、整備する。 ※行政、自治体の法制度や規制値、条例、目標値および各種インセンティブ等</li> <li>3) 国際動向調査レポート・・適宜実施 ※環境に関する国際動向（行政、自治体、企業の先進事例等）の調査を行う。 ※環境対応の先進諸国や日本企業が進出している中国等についても、大使館や日本の出先機関等から情報を収集、整理した後、海外調査団等による調査を検討 ※JILS主催の訪欧・米調査団のミッションに上記内容を盛り込むことも検討</li> <li>4) 先端技術等の動向を把握し、委員会横断的なセミナーや勉強会を開催する。</li> <li>5) その他 <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業の環境報告書（ホームページ・印刷物）収集</li> <li>・学界、団体、大学、自治体の研究</li> <li>・環境に関する書籍一覧</li> </ul> </li> </ol>	<p><b>【2004年活動成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『用語集』※一部CGLメンバー限定でオープン</li> <li>・『URLリンク集』</li> <li>・研究会実施（4回）</li> </ul> <p style="background-color: yellow;"><b>計画より進行に遅れ。特に用語集については、活用方法等のアナウンス強化必要</b></p> <p><b>【2005年度活動成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『用語集』 ⇒適宜更新と公開</li> <li>・『URLリンク集』 ⇒適宜更新と公開</li> <li>・『環境に関する国際動向の調査レポート』（仮称） ⇒大使館や在日出先機関等からの情報収集とその整理</li> <li>・講習会（セミナー）の開催（2回/年） ⇒第1回講習会、7月開催</li> <li>・研究会の開催（1回/原則毎月） など</li> </ul> <p><b>【2005年6月時点】</b></p> <p>※環境報告書作成ガイドラインの物流版、の作成を検討中 ※国際動向については、所在情報の提供に留め、国際版URL集を作成中</p>

環境パフォーマンス評価手法検討委員会  
2005 年度活動テーマについて

**【活動テーマ（ひとつの必須テーマと3つの選択テーマ）】**

- ①『二酸化炭素排出量算定ガイド（Ver. 1）』の試用【必須】
- ②按 分【必須に極めて近い（？）選択】
- ③包装材の使用量/廃棄量の標準的な算定方法の検討【選択】
- ④トラック以外の輸送モードからの二酸化炭素排出量の算定方法について【選択】

**活動Ⅰ. 『二酸化炭素排出量算定ガイド（Ver. 1）』の試用【必須】（6月～9月）**

略（別途説明）

**活動Ⅱ. 按 分【必須に極めて近い（？）選択】**

2004 L E M S 報告書および 2005 C G L 算定ガイド（VER. 1）がたたき台  
⇒按分方法の代替案\*<sup>1</sup>が提案されている。

**【検証のポイント】**

- ①代替案の比較検討
  - ・実用性（輸送事業者からのデータ提供の可能性）
  - ・提供データの性質
    - データ取得単位一車両 1 台 1 台、車種、幹線輸送トラック、集配送トラックなど
    - データ集計期間
    - データ提供頻度
    - 輸送事業者におけるデータ生成方法
  - ・結果の精度 などの視点から

\*）区間別トン按分、トンキロ按分、料金按分など。いずれにしても、燃費等のトラックに関わるデータとの紐付けが大きなポイント。

**活動Ⅲ. 包装材の使用量/廃棄量の標準的な算定方法の検討【選択】**

2004 L E M S 報告書がたたき台

⇒素材別の使用量（購入量）/廃棄量の算定方法が提案されている。

**【検証のポイント】**

- ①提案された算定方法は実用的か？
- ②素材別に算定することは実用的か？（特に廃棄物については、回収事業者の区分に合わせるといったプラグマティックな代替案もある）



#### **活動Ⅳ. トラック以外の輸送モードからの二酸化炭素排出量の算定方法について【選 択】**

例えば・・・

- ・トラック以外（鉄道、内航海運、また、国際物流に関わる輸送モード）の二酸化炭素排出量算定方法の検討
- ・現行トンキロ法で用いられている二酸化炭素排出原単位の検証
- ・その他

3つの選択肢の中から何を選択するか？

選択の際の参考情報を収集するため、当委員会以外のロジスティクス環境会議のメンバーに対して意向調査を行いたい。

ただし、従来からの **LEMS プロジェクト**に加え、最近相次いで設置された類似の検討組織（例えば、グリーン物流パートナーシップ会議の **CO<sub>2</sub> 排出量算定ワーキンググループ**）なども存在するので、各々の役割/機能を十分勘案した上で、当委員会のテーマ、また、検討領域を設定したい。

なお、事務局が考える3つの委員会（LEMS、当委員会、CO<sub>2</sub> 排出量算定ワーキンググループ）の役割/機能分担は、次のようなものである。

**LEMS**：調査・研究・開発

**当委員会**：LEMS の成果の検証

**CO<sub>2</sub> 排出量算定ワーキンググループ**：当委員会で検証したものをグリーン物流パートナーシップ会議のメンバーを中心に普及

以 上

## 源流管理による環境改善委員会 2005年度の進め方

### 1. 源流管理による環境改善委員会の活動方針（活動計画(案)より）

- 1) ロジスティクスの分野から環境負荷低減に取り組むため、荷主企業のロジスティクス・物流部門、物流企業として現状の物流活動をチェックし、見直すための視点とその内容をまとめる。
- 2) 合意された内容はマニュアル形式に整理し、関係者の環境活動を支援する。

### 2. 2004年度の成果物に対する評価と2005年度の活動内容

2004年度の成果物（『ロジスティクス源流管理マニュアル ver.1』2005年3月16日）の内容を、1. に記した活動方針と照らし合わせてみると、以下のような観点から確認を行ったうえで、2005年度の活動を検討した。

- 1) ロジスティクスの分野から環境負荷低減に取り組むため、荷主企業のロジスティクス・物流部門、物流企業として現状の物流活動をチェックし、見直すための視点とその内容をまとめる。

⇒ 基本的には『ver.1』としてまとめたが、見易さという点では改善余地がある。

※見本となる材料を提供いただく

⇒ 環境基本法や各種リサイクル法等の環境に関わる直接的な法規については、共通基盤整備委員会にて作成中。

その他の道路交通法等の間接的な関連法規については、取り組み内容に併せて洗い出しを行ってはどうか。

- 2) 合意された内容はマニュアル形式に整理し、関係者の環境活動を支援する。

⇒ 『ver.1』の内容について、基本的な合意を得たい。⇒アンケート実施中

⇒ マニュアル作成にあたり、既に存在するトラック運行等の領域については、以下のようなものを参照することとし、当委員会では既存の図書が無い領域として、輸配送や包装資材等の物流計画の領域に絞り込む。

#### 【既存マニュアルの例】

- ・『トラック運送事業におけるグリーン経営推進マニュアル』  
交通エコロジー・モビリティ財団
- ・『エコドライブ推進マニュアル』全日本トラック協会
- ・『省エネ運転マニュアル』全日本トラック協会
- ・その他（何かあればご紹介ください）



6) 留意事項

(1) 企業間におよぶ内容については、省資源ロジスティクス推進委員会にて検討された内容をもって、マニュアルに盛り込みたい。

※発荷主企業・着荷主企業・物流企業間の物流における取引条件の是正ポイントと改善方策（『商慣行改善のためのチェックリスト（またはシート）』（仮）

(2) 上記（1）により、本年度のチェックシートの検討範囲は、取引先等の企業間も考慮をしつつ、自社の管理がおよぶ範囲に留めたい。

以 上

省資源ロジスティクス推進委員会  
2005年度の進め方

1. 省資源ロジスティクス推進委員会の活動方針（活動計画(案)より）

- ①省資源・省エネルギーの視点から、サプライチェーンを構成する荷主企業（発荷主・着荷主）と物流企業等が一体となって物流の環境負荷を低減するため、物流諸活動の事例収集を行い、その内容を整理する。
- ②荷主企業（発荷主・着荷主）と物流企業等が一体となって、問題解決のための方向性をとりまとめ、関係者に提案する。

2. 2004年度の成果物に対する見解に基づく2005年度の具体的な活動方針

2004年度の成果物（『省資源ロジスティクス事例集』2005年3月16日）の内容と、1.に記した活動方針とを照らし合わせてみると、次の3つを2005年度の活動方針とし、活動内容の充実を図ることが望ましい。

- ①ある特定のサプライチェーンを構成する荷主企業（発荷主・着荷主）と物流企業等に焦点をあてること。
- ②（多くの場合、カネは出していないが物流条件を決定している）着荷主を土俵の上に乗せること。
- ③問題解決のための方向性（もしくは方針）を示すこと。

3. 成果

2005年度は「ロジスティクス環境会議」（第1期）の最終年度にあたる。したがって、2.で記した活動方針③に対応するような、具体的な成果が欲しいところである。

このとき、省資源ロジスティクス推進委員会の活動方針である“荷主企業（発荷主・着荷主）と物流企業等の一体”性に着目するならば、例えば、省資源・省エネルギー（≒環境負荷低減）の推進を阻害しているような物流に関わる取引条件の改善を狙ったモノ/コトを中心に当委員会の成果とする。

①環境負荷低減のための物流に関わる取引条件改善に関する『気づきの書』

②環境負荷低減のための『物流に関わる取引条件改善のヒント集』

①、②は、物流に関わる取引条件改善を行おうとする取引先に対する説得材料の雛型となりうるような資料をイメージしている。

※以下については、活動進捗にあわせ、改めて検討を行う。

③環境負荷低減のための『物流に関わる標準的契約書』

また、コトとしては・・・

④輸送事業者による環境にやさしい着荷主企業リストの作成・公表

⑤行政機関に対する提案

⑥その他

ロジスティクス大賞 商慣行改善部門賞の創設（JILSの現行事業に対する提案）

## 4. 委員会の活動

### 1) 事例研究

課題や改善内容等の成果物に盛り込むための材料収集。委員メンバーによる発表が望ましい。

### 2) 調査

具体的な調査は事務局とシンクタンクが実施。委員メンバーにはヒアリング等の調査協力をお願いしたい。

## 5. 調査活動の進め方

### 1) 調査の準備

- ①商慣行改善シナリオ（作業仮説）の共有  
⇒参考資料 『商慣行の改善と物流効率化に関する調査報告書』（要約版）
- ②検討対象とする商慣行の選択
- ③特定のSC<sup>1)</sup>（製品）の設定（⇒分科会の設置）
- ④与件と検討項目の仕分<sup>2)</sup>
- ⑤③の流通に関する企業の洗い出し

#### 委員メンバーによる検討

### 2) 実態調査

- ①関係企業間<sup>3)</sup>における物流実態<sup>4)</sup>の調査
  - ・ロット
  - ・リードタイム
  - ・物流コスト
  - ・積載率
  - ・文書化の程度 など

#### 事務局とシンクタンクによる調査

#### 委員メンバーによるチェック

---

註1) 調達物流、生産物流、販売物流等のサプライチェーン上の全物流プロセス。

註2) 例えば、自社の物流部門で直接的にコントロールできない領域（工場における生産量？ など）を与件、直接的にコントロールできる領域を検討項目とするといった考え方。

註3) 発荷主⇔着荷主、発荷主⇔物流企業、着荷主⇔物流企業

註4) 物流活動に直接的な影響を及ぼすと思われる“取引条件”に着目する。

例えば・・・

- ・ロットを大きくする⇒トラック台数を減らせる⇒二酸化炭素の発生量を削減できる
- ・リードタイムを長くする⇒鉄道が使える⇒（トラックに比べて）二酸化炭素の発生量を削減できる
- ・製品価格と輸送費を分離する⇒物流サービスレベルの見える化⇒ムダ/ムリ/ムラのある輸送をなくす⇒二酸化炭素の発生量を削減できる

- ・取引条件を明文化する⇒根拠の無い多頻度/小口輸送の是正⇒二酸化炭素の発生量を削減できる
- ・複数企業間で物流情報（例えば、製品形状のたて・よこ・高さ・重量など）を共有する⇒共同配送の効率アップ⇒二酸化炭素の発生量を削減できる

### 3) 環境負荷低減のための商慣行改善シナリオの検討

まずは2社間で、究極はSC全体で・・・

- ①取引条件変更案の検討
- ②取引条件変更のための必要条件のチェック
- ③取引条件変更の効果推計
  - ・環境効果
  - ・コスト効果
  - ・その他定量/定性効果
- ④取引条件変更案の評価

委員メンバーによる検討

事務局とシンクタンクによるまとめ（整理）

## 6. スケジュール

	2005年									2006年		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1. 省資源ロジスティクス推進委員会		第10回 5/末	第11回 6/末	第12回 7/中	第13回 8/末	第14回 9/末	第15回 10/末	第16回 11/末	第17回 12/中	第18回 1/末		
			本日の議案		委員メンバーによる調査項目の洗い出し							
1) 05年活動計画												
2) 調査の準備												
3) 実態調査												
4) まとめ												
			事務局・シンクタンクによる実態調査と委員メンバーによるチェック									
								委員メンバーによる検討と事務局・シンクタンクによるまとめ（整理）				
第4回本会意義												■

以上

## リバースロジスティクス調査委員会

### 2005年度の進め方

1. 委員会（全体会）
  - ・委員会全体として検討、確認すべき事項について議案を設定し、議論および合意を図る。
2. 分科会（グループ）活動・・・開催頻度1回／月（集合方式、又はeミーティング方式）
  - ・業種（製品）別に複数グループ編成を行い、リバースロジスティクスの視点から、将来のあるべき循環型ビジネスモデルと、その実現課題の抽出と解決策について検討を行う。
  - ・委員会（全体会）では、各分科会グループより、検討経過（結果）について発表していただく。
  - ・発表内容については、委員会期日までに各分科会にてまとめ、事前に事務局までメール添付にてお送りいただく。
3. 勉強会
  - ・委員会（全体会）開催の際、委員会メンバーまたは外部から講師を招き、情報交流を行う。
    - 第7回 ㈱イーコス 遠藤氏「廃棄物・リサイクルガバナンスの強化と合理的コスト削減の同時実現」
    - 第8回 流通経済大学 矢野氏「ITと物流」
    - 第9回 イオン(株)、(株)オカムラ物流
4. 見学会（3回程度／年） ※希望者を募って実施。実費は参加メンバー負担
  - 第4回 東京ボード工業(株) 6月23日（木）

#### 【2005年度委員会、分科会、勉強会、見学会開催（案）】

	2005年										2006年		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
1. リバースロジスティクス 調査委員会	第10回 4/14(木)	第11回 5/27(金)		第12回 7/5(火)	第13回 8/30(火)		第14回 10/11(火)	第15回 11/25(金)		第16回 1/24(火)	第17回 2/24(金)		
2. 勉強会	第7回	第8回		第9回	第10回		第11回	第12回		第13回	第14回		
3. 分科会													
1) 家電・OA機器	第10回	第11回	第12回	第13回	第14回	第15回	第16回	第17回	第18回	第19回	第20回		
2) 自動車	第10回	第11回	第12回	第13回	第14回	第15回	第16回	第17回	第18回	第19回	第20回		
3) 食品	第10回	第11回	第12回	第13回	第14回	第15回	第16回	第17回	第18回	第19回	第20回		
4) 物流	第10回	第11回	第12回	第13回	第14回	第15回	第16回	第17回	第18回	第19回	第20回		
4. 見学会				※2004年度実施月				※2004年度月				※2004年度実施月	

※報告書完成 2005年12月（予定）

※第4回本会議 2006年3月（予定）

以上



## 共通基盤整備委員会 2005年度の活動内容

### 1. 活動方針

環境会議及び各委員会の円滑かつ効果的な活動を支える共通的な「情報資源」を整備し、アウトプットは原則として全て公開する。

### 2. 活動内容

- 1) 物流・ロジスティクスの視点から、既存の用語集等には抜けている環境に関する用語を収集し、用語集として整備する。

⇒ (1) 「用語集」や「定義」という言葉が敷居の高い感じを与え、書き込みしづらい等の意見があるため、「用語集」を改め、用語の書込み時点の背景や状況、ポイントを書込み者の視点でまとめていただけるように、「解説集」とする。

※書き込みされたものが必ずしも正しい定義ではない、というコメントを加える。

- (2) 「解説集」の書込みを活性化するため、『CGL NEWS』等で環境会議メンバーに書込みの要請を行う。

- (3) 各委員会で重要語句と思われるものを挙げてもらい、優先的に書き込みを行っていく。

委員会（オフ会）の場で確認された用語と合わせ、8月より随時ホームページ上でオープンしてはどうか。

- 2) 行政、自治体、産業界、学界、団体等の情報を収集、整備する。

- ・行政、自治体の法制度や規制値、条例、目標値および各種インセンティブ等  
⇒URLリンク集として作成済

- ・企業の環境報告書（ホームページ・印刷物）  
⇒JILSにて収集（閲覧コーナーにて参照可能）

- ・学界、団体、大学、自治体の研究  
⇒URLリンク集にて作成（予定）

- ・環境に関する書籍

- 3) 環境に関する国際動向（行政、自治体、企業の先進事例等）の調査を行う。

- ・環境対応の先進諸国や日本企業が進出している中国等についても、大使館や日本の出先機関等から情報を収集、整理した後、海外調査団等による調査を検討

⇒URLリンク集として作成中

- 4) 先端技術等の動向を把握し、委員会横断的なセミナーや勉強会を開催する。  
⇒研究会：開催済み（7回/2005年6月時点）  
⇒講習会（セミナー）：7月開催（予定）

### 3. アウトプット(成果)

- 1) 環境に関する用語集・・・・・・・・・・2004年4月より適宜公開  
⇒2005年3月プレオープン  
⇒各委員会の重要用語など、2005年8月よりオープン
- 3) 行政、自治体、産業界、学界、団体等のリンク集・・・2004年7月より適宜公開  
⇒2005年2月オープン
- 4) 環境に関する国際動向の調査報告・・・・・・・・適宜実施  
※行政、自治体、企業の先進事例等  
⇒URLリンク集としてまとめる、2005年8月

以 上

## 『二酸化炭素排出量算定ガイド (Ver. 1)』を使った環境パフォーマンスの算定について (案)

2005.6.20

環境パフォーマンス評価手法検討委員会/事務局

### 1. 趣 旨

ロジスティクス環境会議第3回全体会議で決議された二酸化炭素排出量の算定（トラック分野）を、『二酸化炭素排出量算定ガイド (Ver. 1)』を使って会議のメンバー企業<sup>1)</sup>が行い、算定結果の検証を行う。

今回の算定の呼びかけは、ロジスティクス環境会議議長が行い、結果の検証については同環境パフォーマンス評価手法検討委員会が行うこととする。

### 2. 検証のポイント

- ①算定式の違いによる算定結果（算定値）の誤差はどの程度か<sup>2)</sup>？
  - ・算定式と誤差の大きさの関係如何？ ⇒参考資料○（p2）
- ②データの取得方法の違い（実測値、推定値）による算定結果（算定値）の誤差はどの程度か？
  - ・同じ算定式を使った場合のデータ取得方法の違いによる誤差はどの程度か？  
⇒参考資料○（p9）

上記①、②に関わる先行事例としては参考資料○（p10）参照。

- ③各算定式の利用上の特徴
  - ・データ入手の難易度は？（燃料使用量、燃費、輸送重量、輸送距離）
  - ・使い勝手の良し悪しは？（例えば、トンキロ法で用いられる「二酸化炭素排出原単位の区分」と物流現場での「車種区分」の整合性など）
- ④いずれの算定式も使うことが出来ない場合は、一体何が阻害要因になっているのか？

---

註1) 対象者は、環境会議のメンバー企業 111 社のうち、実物流のある企業 100 社（行政機関、シンクタンク等は除く）。⇒参考資料○（p1）

註2) 環境パフォーマンス評価手法検討委員会では算定結果の理論的な精度の高さを、燃料法>燃費法>トンキロ法 と設定している。

なお、ロジスティクス環境会議第3回全体会議（3/16）以降の動きとして、トンキロ法（トラック）の短所として指摘されていた積載率の良し悪しが算定結果に反映されない点について改良を加えた新しい原単位の提案が国土交通省からあった。これは、トラックの二酸化炭素排出原単位をトラックの積載率別に提示する方法である（改良トンキロ法）。ただし、原単位の値そのものについては現時点では検証されていない。⇒参考資料○（p3）、参考資料○（pp4 - 7）

また、(社)日本物流団体連合会では、「地域間マトリクス法」と呼ばれる輸送区間や輸送モードの組合せに応じてより細かい原単位を作成しようとする動きがある。⇒参考資料○（p8）

### 3. 手 順

- ①説明会の実施 6月～7月にかけての2日間
- ②算 定 7月～8月の間の1か月間<sup>3)</sup>
- ③結果の回収 8月
- ④検 証 8月～9月
- ⑤報告書作成 9月

### 4. 説明会について

#### 1) 目 的

ロジスティクス環境会議メンバー企業における環境パフォーマンス（トラック輸配送に伴う二酸化炭素排出量）の算定にあたり、算定を行おうとする企業の“実情”（算定を巡る環境）に応じて、算定の目的、算定結果の活用方法、算定上の留意事項などについて予め説明を行うことで、趣旨に添ったより効率的な算定が行われることを狙う。

#### 2) 説明会のグループ編成

- ・ 2つのグループを編成し、各グループについて2回ずつ行う。
- ・ 2つのグループのどちらに所属するかは各社の判断による。

トラックからの二酸化炭素排出量算定の実情については、次の2つの要素の組合せで説明することができると考えられる。

- (1) トラックからの二酸化炭素排出量算定の実情
- (2) 採用している（もしくは採用可能な）算定方法

#### (1) トラックからの二酸化炭素排出量算定の実情

次の3つのケースが考えられる。

- ①算定を行っている
- ②算定は可能だが現状では算定していない
- ③算定は困難である

#### (2) 採用している（もしくは採用可能な）算定方法

次の2つのケースが考えられる。

- ①複数の算定式を採用している/採用可能
- ②ひとつの算定式を採用している/採用可能

##### 【算定式のオプション】

燃料法：燃料使用量（ $l$ ）×二酸化炭素排出係数（ $kg-CO_2/l$ ）

燃費法：〔輸送距離（ $km$ ）/燃費（ $km/l$ ）〕×二酸化炭素排出係数（ $kg-CO_2/l$ ）

トンキロ法：〔輸送重量（ $t$ ）×輸送距離（ $km$ ）〕×二酸化炭素排出原単位（ $kg-CO_2/t \cdot km$ ）

その他：

以上を組み合わせると、次ページの表のようになる。

---

註3）仮定。検証に必要なデータが取ることができればこの期間に拘らない。

**表 要素の組合せによる事前説明会のグループ分け**

(1)算定実績	(2)算定式	
	複数の式	1つの式
算定実績あり	A	B <sub>1</sub>
算定可能	A	B <sub>2</sub>
算定困難	C	

3) グループごとの説明のねらい

グループごとの説明会のねらいは次の通り。

A組：算定式以外の諸条件を統一し、算定式による算定結果の差異を検証する。

B<sub>1</sub>組：特に説明会をする必要は無いと思われるグループ。ただし、算定式の違いによる算定結果の差異について解説し、より精度の高い式を利用してもらうよう誘導することが望ましい（⇒A組と同時開催とする）。

B<sub>2</sub>組：算定方法の説明。

C組：算定方法の説明（⇒B<sub>2</sub>組と同時開催とする）。

4) 説明会のスケジュール

ここでは、便宜的に、A組+B<sub>1</sub>組を「**兄組**」、B<sub>2</sub>組+C組を「**弟組**」と呼称する。

ひとつのグループについて2回、説明会を開催する。

6月○日（○） 10:00～12:00 弟組

6月□日（□） 15:00～17:00 兄組

7月○日（○） 10:00～12:00 兄組

7月□日（□） 15:00～17:00 弟組

## 調 査 票【内容試案】

### ◆ねらい

省 略（前述）

### ◆方 針

データを取り易い前提条件（例えば、デジタコが装着されたトラック、特定の輸送区間、特定の商品など）を設定して、今回の検証のねらいどおりの算定結果を出しましょう。

### ◆前提条件

#### 【荷主企業】

輸送コストを負担している日本国内のトラック輸送が対象です。

#### 【物流企業】

日本国内のトラックによる実車輸送（回送を除く）が対象です。

（輸送を他社に委託している場合は荷主に同じです）

### ◆複数の算定式を使うことができる企業様へのお願い

算定式の違い（燃料法、燃費法、トンキロ法）による算定結果を検証するためのデータが入手できるよう、算定にあたっての前提条件（例えば、対象事業所、対象トラック、対象路線など）を揃えていただけるようお願いいたします。

### ◆実測値と推定値どちらとも入手することができる企業様へのお願い

算定式に代入するデータの取得方法の違い（実測値、推定値）による算定結果を検証するためのデータが入手できるよう、算定にあたっての前提条件（例えば、対象事業所、対象トラック、対象路線など）を揃えていただけるようお願いいたします。

---

### 設問 1 今回の算定にあたっての前提条件についてお教えてください。

#### ①算定期間（共通）

2005年○月○日から○月○日まで。

#### ②事業所（共通）

【荷主企業の方】商品の出荷のある事業所を対象にしてお答えください。

【物流企業の方】トラックのある事業所を対象にしてお答えください。

全事業所（○箇所）

特定事業所（全○箇所のうち○箇所）

事業所はわからない

#### ③車 両（共通）

全ての車両

特定の車種すべて（10トン車、4トン車、ディーゼル車、CNG車など）

特定の車両（品川100 あ ○○ - ○○など）

車両はわからない

④輸送区間（燃費法、トンキロ法）

- 全ての輸送区間
- 特定の輸送区間
- 輸送区間はわからない

⑤荷物（トンキロ法）

- 全ての荷物（商品）
- 特定の荷物（商品）
- 荷物（商品）はわからない

**設問2 今回の算定値の性格についてお答えください。**

- サンプルのみを対象に算定
- サンプルを対象に算定後拡大（⇒拡大の方法は？）
- 全数を対象に算定

**設問3 今回の算定結果についてお答えください。**

データ項目の値については、推定値、実測値いずれか該当する方に○を付けてください。

**①燃料法による算定結果**

データ項目 燃料の種類	①燃料使用量	②CO <sub>2</sub> 排出係数	CO <sub>2</sub> 排出量(①×②) kg - CO <sub>2</sub>
ガソリン	リットル (推・実)	2.32 kg - CO <sub>2</sub> / <sup>リ</sup> トル	
軽油	リットル (推・実)	2.62 kg - CO <sub>2</sub> / <sup>リ</sup> トル	
液化石油ガス (LPG)	kg (推・実)	3.00 kg - CO <sub>2</sub> /kg	
合計	—	—	

**②燃費法による算定結果**

データ項目 燃料の種類	①輸送距離	②燃費*	③CO <sub>2</sub> 排出係数	CO <sub>2</sub> 排出量 (①/②×③) kg - CO <sub>2</sub>
ガソリン	km (推・実)	km/ <sup>リ</sup> トル (推・実)	2.32 kg - CO <sub>2</sub> / <sup>リ</sup> トル	
軽油	km (推・実)	km/ <sup>リ</sup> トル (推・実)	2.62 kg - CO <sub>2</sub> / <sup>リ</sup> トル	
液化石油ガス (LPG)	km (推・実)	km/kg (推・実)	3.00 kg - CO <sub>2</sub> /kg	
合計	—	—	—	

\*) 燃料の種類が同じであっても、例えば、10トントラックと4トントラックでは燃費が異なる。この様な場合、燃費（車種）の違いに応じて輸送距離を求める必要がある。

### ③トンキロ法による算定結果

データ項目 車両の種類	①輸送重量**	②輸送距離	③CO <sub>2</sub> 排出原単位	CO <sub>2</sub> 排出量 (①×②×③) kg - CO <sub>2</sub>
営業用普通貨物車*	トン (推・実)	km (推・実)	0.178 kg - CO <sub>2</sub> / t・km	
営業用小型車	トン (推・実)	km (推・実)	0.819 kg - CO <sub>2</sub> / t・km	
営業用軽自動車	トン (推・実)	km (推・実)	1.933 kg - CO <sub>2</sub> / t・km	
合計	—	—	—	

\*) 積載重量 3,000kg 以上。

\*\*）輸送重量を輸送容積（体積）から換算係数を使って輸送重量を推定されている場合は、当該欄に**輸送容積/体積（立方メートル）**および**換算係数（トン/立方メートル）**をご記入ください。

### 設問4 各算定式の利用上の特徴についてお気づきになったことをご自由にお書きください。

〔視点の例〕

- ・データ入手の難易度は？（燃料使用量、燃費、輸送重量、輸送距離）
- ・使い勝手の良し悪しは？（例えば、トンキロ法で用いられる「二酸化炭素排出原単位の区分」と物流現場での「車種区分」の整合性など）

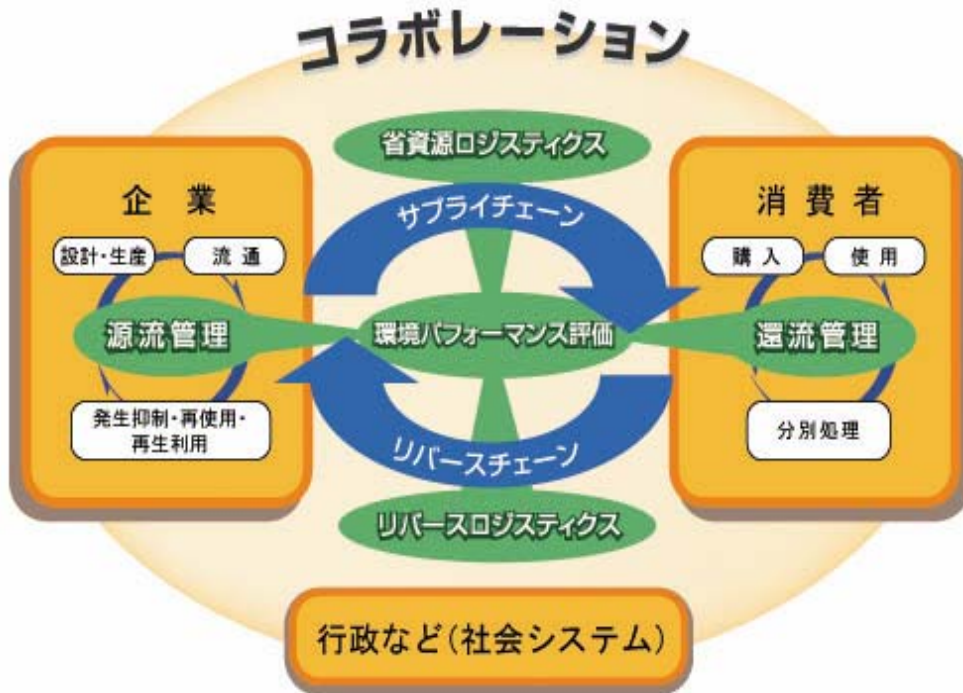
◆算定を行うことが出来なかった場合は、次の設問にお答えください。

### 設問5 いずれの算定式も使うことが出来なかった理由についてお教えてください。

以上



## 循環型社会を実現するロジスティクス・グランドデザイン



調達、生産、流通、消費の諸活動とそれらの過程を経て発生する廃棄物の処理の行為は、環境汚染や環境破壊など、環境に対して様々な負荷を与えます。私達の世代は健全な地球環境と社会環境とを（人類生存の大前提である）最も重要な財産として、将来の世代に引き継ぐ責務を有しています。その責務を果たすべく、ロジスティクスにおいても、環境への調和、環境との共生、環境改善への積極的貢献、を最優先に考えねばなりません。

ロジスティクスには、再使用や循環などの視点に加え、素材の選択や廃棄物の処理のあり方で視野を広げ、環境への負荷に適切に配慮しつつ、費用対効果を最適化することが必要です。

JILS は 21 世紀の循環型経済における、ロジスティクス活動のあるべき姿として「環境と調和した循環型社会を支えるロジスティクス」を提唱します。

循環型の経済活動を、ロジスティクスを通じて実現したいという思いを込めて、「循環型社会を実現するロジスティクス・グランドデザイン」を提案します。

以上

# 2005年度企画運営委員会(広報・普及含)・委員長ミーティングのスケジュール(案)

	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1・2月	3月
企画運営委員会		7/末 ・委員会間進捗と課題等の検討・確認 ・最終年度のローマップの検討・確認 ・行政等要望事項と内容の検討と確認			10/中旬 ・委員会間進捗と課題等の検討・確認 ・各委員の提言項目と内容の洗出し	11/下旬 ・委員会間進捗と課題等の検討・確認 ・各委員の提言項目と内容の洗出しと調整	提言まとめ	提言活動	第4回本会議
委員長M	6/20 ・委員会間進捗と課題等の検討・確認 ・最終年度のローマップの検討・確認 ・行政等要望事項と内容の検討と確認			9/中旬 ・委員会間進捗と課題等の検討・確認 ・各委員の提言項目と内容の洗出し	10/下旬 ・委員会間進捗と課題等の検討・確認 ・各委員の提言項目と内容の洗出しと調整(1)	11/月上旬 ・委員会間進捗と課題等の検討・確認 ・各委員の提言項目と内容の洗出しと調整(2)	提言まとめ	提言活動	
広報普及専門委員会		7/下旬 ・最終年度活動の確認  ※ジャーナル1号発行(予定)		9/下旬 ・ジャーナル2号企画検討 ・その他	10/下旬 ・フォーラム企画検討	11月下旬 ・フォーラム企画検討  ※ジャーナル2号発行(予定)	・フォーラム開催(予定) ※パートナーシップ会議とのジョイント企画		

## ロジスティクス環境会議 第3回本会議 議事録

I. 日 時：2005年3月16日（水） 14:00～16:00

II. 場 所：東京・千代田区 ホテルニューオータニ 地下1階 おり鶴 麗の間

III. 出席者：110名

### IV. 議 案：

1) 各委員会の活動計画について

- (1) 企画運営委員会
- (2) 環境パフォーマンス評価手法検討委員会
- (3) 源流管理による環境改善委員会
- (4) 省資源ロジスティクス推進委員会
- (5) リバースロジスティクス調査委員会
- (6) 共通基盤整備委員会

2) 企画運営委員会からの提案について

3) 2004年度決算（案）・2005年度予算（案）について

4) J I L Sの今後の取り組みについて

### V. 開 会

角田専務理事より開会が行なわれた。

VI. 張議長より、開会の挨拶が行なわれた。

### VII. 経過報告【資料1】

徳田事務局長より、資料に基づき、2004年4月以降の活動の経過報告と循環型社会を実現するロジスティクス・グランドデザインについて説明が行なわれた後、全会一致にて承認がなされた。

### VII. 議事の経過

張議長の司会のもと、以下のとおり議事が進められた。

#### 1. 議 事

1) 各委員会の今後の活動概要について【資料2-1～4】

以下のとおり、各委員会の委員長より、今後の活動計画案について説明がなされた。

- (1) 源流管理による環境改善委員会・・・・・・・・小西委員長
- (2) 省資源ロジスティクス推進委員会・・・・・・・・山本委員長
- (3) 共通基盤整備委員会・・・・・・・・津久井委員長
- (4) 環境パフォーマンス評価手法検討委員会・・・・増井委員長
- (5) リバースロジスティクス調査委員会・・・・菅田委員長

各委員会の説明の後、全会一致にて承認がなされた。

## 2) 企画運営委員会からの提案について【資料3】

2004年度の活動を踏まえ、企画運営委員会より、提案が出され、小西副委員長より以下のとおり説明がなされた。

現時点で特にメンバー各位への提案として、以下の4点が提示された。

### (1) パフォーマンスの検証のお願い

- ・トラック輸配送に関する二酸化炭素排出量について、可能な限り3つの算定式（燃料法・燃費法・トンキロ法）を試用し、算定式毎の結果を確認する。
- ・算定する際のデータ収集等の課題について、具体的な課題を提示いただく。
- ・算定するために必要なデータ収集については、協力会社も参画できるような体制を整備していく。

### (2) リバースの調査協力をお願い

- ・適切かつ効率的な仕組みをリバースの領域でつくっていくため、業界で共通的なプラットフォームが必要なため、その課題を深堀するための調査協力をいただく。

### (3) 関係行政機関との意見交換の要望の提案

- ・産業界と行政で情報共有すべきことについて、関係行政機関と意見交換を行う。

### (4) グリーン物流パートナーシップ会議との連携

- ・ロジスティクス、物流に関わる企業が1社でも多く環境活動に取り組むため、環境会議の成果をグリーン物流パートナーシップ会議に提案する。

以上4点の提案が提示され、CGLの成果を提案し、より多くの方に活用していただくことが、全会一致にて承認された。

## 3) 2004年度決算（案）・2005年度予算（案）について【資料4-1】

徳田事務局長より、資料に基づき、2004年度決算（案）・2005年度予算（案）について説明が行われた後、全会一致にて承認がなされた。

## 4) J I L Sの今後の取り組みについて【資料5】

徳田事務局長より、資料に基づき、J I L Sの今後の取り組みについて説明が行われた後、「ロジスティクス環境推進センター」設置について、全会一致にて承認がなされた。

以上をもって、第3回本会議の議事が終了し、張議長は閉会を宣した。

## 2. オブザーバー関係各省の施策について

会議終了後、岡部副議長の司会進行のもと、オブザーバー各省より、各省の施策について、説明がなされた。

- 1) 経済産業省 遠山氏  
商務情報政策局 流通政策課 課長補佐
- 2) 国土交通省 小山氏  
政策統括官付 貨物流通システム高度化推進調整官
- 3) 環境省 小紫氏  
大臣官房 廃棄物リサイクル対策部企画課 循環型社会推進室課長補
- 4) 農林水産省 瀬戸氏  
総合食料局 流通課 商業調整官

## VIII. 閉 会

以上をもって全ての内容を終了し、角田専務理事は閉会を宣した。

以 上

## グリーンロジスティクスエキスパート講座（仮称）

### 開催要領（案）

#### 1. 目的

ロジスティクスにおける環境負荷とコストを低減するため、荷主企業と物流企業のパートナーシップに基づき、ロジスティクス領域における環境負荷の現状を定量的に把握し、その低減のための循環型システムを計画立案、推進、評価を実践できる人材の育成を推進し、産業界の発展に寄与すること目的とする。

#### 2. 名称

グリーンロジスティクスエキスパート講座（仮称）

#### 3. 会期

2005年11月～2006年3月（述べ12日間）

#### 4. カリキュラム

グリーンロジスティクスエキスパート専門委員会にて検討・決定。

#### 5. 受講対象

製造業、流通業、物流業のロジスティクス・物流・環境部門のリーダー層

#### 6. 受講人数

約50名

#### 7. 参加料（税込）

会 員：26万2千5百円

非会員：31万5千円

#### 8. 企画と運営

グリーンロジスティクスエキスパート専門委員会

・講座のカリキュラム全体構成および資格認定基準の検討

グリーンロジスティクスエキスパート単元ワーキング委員会

・講座の各単元のカリキュラム構成と客観試験問題の検討

#### 9. 主催

社団法人日本ロジスティクスシステム協会

〒105-0013 東京都港区浜松町 1-10-14 住友東新橋ビル 3号館 5階

電話：03-3432-3291

担当：ロジスティクス環境推進センター